

「不登校・ひきこもり経験者等、社会に出るのに不安を抱える 青少年に対する総合的な相談支援及び居場所づくり」

NPO法人 京口スコラ

当団体について

不登校生対象のフリースクール京口スコラとして1986年にスタートし、2003年にNPO法人化。スタッフは主に、臨床心理士、公認心理師、精神保健福祉士、保育士の有資格者で構成。現在は、学齢期だけに限らず、広く若者を対象に、その人が社会とつながるための支援を心身両面にわたって提供している。
併設の相談機関京口カウンセリングセンターと連携して運営。

1. 事業の目的

社会に出るのに不安や困難を抱える若者は年々増えており、次第に高齢化していることも大きな問題となっている。そのような、なかなか外に出られない若者が気軽に利用できる居場所を作り、そこで安心できる人と出会いながら、生活訓練、共同活動、共同作業などができる機会を提供し、心身の安定と、自律的に社会とつながれることを目指す。



2. 活動内容

居場所事業 … 毎週金曜日 11:00～17:00 開所。

日常的な人との関わり、創作活動、農作業、レクリエーション、季節のイベントなどを通じて対人関係の緊張緩和を図り、自分に自信をつけることを目指す。随時、講師を招いてのクラフト講座（手工芸や料理など）も実施。



社会スキルアップ講座 … 毎月一回開催。外部講師（臨床心理士）。小グループでのワークを通して、各種社会的スキルの向上を図る。

親の会 … 毎月一回開催。当施設利用者さんの親御さんを中心に、様々な悩みを抱える親御さん相互の情報交換会・勉強会。専門スタッフが進行役兼任アドバイザーとして参加。

親の会風景



畑作業



クラフト講座



木工



成果物

3. 成果

当事業は三年目となり、当初からの利用者（一部は“卒業”した方も）に対しては一定の安心感と、人と接することに対する自信のなさの軽減、という面での成果は着実に上がってきている。そのことが新規の利用者にも安心感を与え、好循環を生んでいる。各自が自身と社会との関わり方について主体的に考え、それをお互いに話すこともできるようになってきている。また、遊びやコミュニケーションが増えるにつれ、創作活動や生産活動にも主体的に取り組む姿が多くみられるようになってきている。

講座は、継続利用の方が増え、互いに顔見知りになるとともに、グループワークでの相互のコミュニケーションもスムーズになってきている。また、親の会では、不安を抱えた親同士の互いのサポート関係ができるとともに、新規利用の方へのアドバイスも主体的に行える会となってきており、会での活動を通した親の心の安定が、家庭での子どもへの好影響という結果も生み出している。

4. 今後の課題、目標

三年の活動を経て、活動内容自体は充実し、人間関係も良好になったものの、その後すぐに一人一人が社会に出られるかというと、それにはもう少しハードルがあるケースが多く、引き続き、関係団体と連携した個別のサポートを同時並行で続けていく必要がある。

活動の安定とともに主体的な動きも増えてきており、創作物や生産物のレベルも上がっているが、目標のひとつとしている「事業化」までは至っていない。今後、より各自の能力を発展させて自信につなげるという目的からすると、小規模からでも、販路を開拓していくことが次の課題である。それと関連して、事業の経済的な自立度を高めることは今後の大きな課題である。そのために、利用者の増加、制作活動と販売の充実、そういう面に力を入れていく必要がある。